

思い出してみても…～私にもあった青春時代～

ねらい

自分の青春時代(高校時代)を思い出し、子どもの思いに寄り添いつつ言葉を届ける術を考える。子どもにとってどんな親であればいいのか考える。

学習者: 筆記用具

主催者: 名札、県ワークシート、アンケート用紙、模造紙、フェルトペン、ボールペン、マグネット、付箋

準備物

会場設定: 机(グループ×2個)、いす、ホワイトボード(または黒板)

時間	アクティビティの展開	留意点	備考
14:30 (10分)	受付(名札) 挨拶・ファシリテーター 自己紹介・趣旨・ルール説明など	○各自名札をつける 参加者は平等(一方的にしゃべらない、人の話を聞く)、発言は強制ではない、しゃべらないのも自由、守秘義務(気持ちよく話せるために)	※スケジュールを版書しておく。
14:40 (10分)	アイスブレイク(雰囲気作り) ○「思い出そう高校時代」ゲーム ①円を作り、全員の顔が見えるように ②ファシリテーターが質問をする「高校時代の好きな科目」で分かれる。 ③次に「高校時代に好きだったこと、やっていたこと」で分かれる。 ④グループ作り: 4人から5人のグループを作る グループ作り・机に移動	○お互いを知り合う ○和やかな雰囲気作りに配慮する ○どんなことをやっていたか話してもらおうとよい。 ○グループで話ができるような配慮をする グループ作り(6人以内のグループ) →この間にワークシートを配布する	空間部分を利用 ・グループ数に応じて机を配置
14:50 (15分)	<考えましょう・出し合ひましょう①> ○各個人で①「自分側がこと同じ年齢だった頃を思い出して記入してみよう」書き出してみる。 ○グループ内で紹介しあう	自分の青春時代を思い出して、子どもの気持ちに近い感情を持ってもらう	時間を制限する
15:05 (20分)	<考えましょう、出し合ひましょう②> ○「自分がわがこと同じ年齢だった頃を思い出して……」をグループ内で出し合う。模造紙に記入する ・悩んでいたこと ・相談したときの親の接し方 ・あなたが望んでいた親の接し方	○模造紙に直接書き込む	模造紙の使い方を板書する
15:25 (15分)	<考えましょう、出し合ひましょう③> 子どもに相談されたときの理想の接し方5か条をグループで考える	各グループで司会・発表者を決めてもらう	
15:40	○グループ発表	○各グループで話し合われたことを発表する	
15:50	<学習を振り返りましょう> ○学習の振り返り 子どもにとって大人はどんな存在であればいいのか考える。 ○アンケートの記入	○ファシリテーターからのまとめ ○情報提供	
16:00	終了・片付け		